

新課程全学年全面实施年に考える①

学びの意欲を 高める探究学習

2015年度は、全学年が新課程全面实施となる年。そこで、先行実施年を含むこれまでの3年間の新課程指導を、2号にわたって振り返る。

1回目の今号では、次期学習指導要領でも引き続き重視されることが予想される探究学習について、その現状と課題をpushした上で、どのような学習活動を行えば生徒の興味・関心を引き出し、「学び」の意欲を高められるのか、そこで教師に求められる指導や役割は何なのか、考えていく。

高校教育の
今を見つめながら、
未来を見据える

2012年度より、本誌では、環境変化の激しい社会を生き抜くことが出来る人材像と、そのような人材を育成するために求められる高校教育の役割について考えてまいりました。その中で見えてきた人材像とは、どんな環境変化にも流されない、目標や目的、信念、こだわりといった「軸」を持ちながら、その「軸」に基づいて変化に柔軟に対応できる「修正力」を持った人、そして、常に自ら学び続けられる「主体性」を持った人です。そのような姿勢や力を持った人材を育成する上で高校教育に求められる指導を考える時、そのヒントは、高校現場の今の課題にあるのではないかと、これまでの取材や先生方のお話を通じて考えるようになりました。

高校教育の今を未来につなげる
—— そのようなアプローチで、
今年度は高校教育のあり方を考えてまいります。

『VIEW21』高校版編集長 柏木崇

1

探究学習の現状と課題

どのような取り組みが行われているのか

実践事例【P.6~17】

宮城県
仙台二華中学・高校

「世界の水問題」を
共通テーマとした
探究学習の取り組み

福井県立
高志高校・中学校

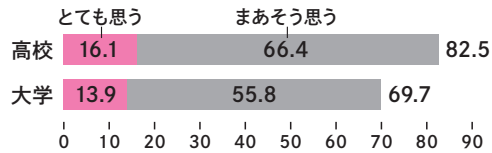
教科横断の課題を学んだ
上で研究テーマを設定する
探究学習の取り組み

静岡県立
沼津西高校

総合的な学習の時間と
教科を連携させた
探究学習の取り組み

探究学習に対する教師の意識

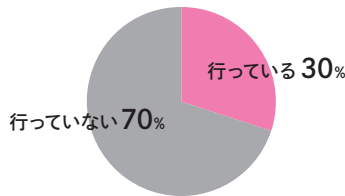
Q. 高校で今まで以上に探究的な活動を充実させた方がよいと思いますか。



注) 対象は、全国の高等学校の校長及び大学の学科長。2013年11月~12月に郵送法による質問紙調査を実施。有効回答数は、高校1228、大学2012
出典/ベネッセ教育総合研究所「高大接続に関する調査」(2014)

探究学習を行う上での教師の課題

Q. 担当の教科・科目で、探究的な学習活動を行っていますか。



探究的な学習活動を行っていない理由(上位3つ)

- 探究学習を取り上げる時間・余裕がないから
- 探究学習が出来るほどの学力が身に付いていないから
- 指導法が分からないから

出典/『VIEW21』高校版読者モニターアンケート結果(アンケートは、2015年1月にウェブで実施。有効回答数は40)

探究学習の必要性を感じながらも、様々な課題により、取り組むのが難しいのが実情

2

課題解決の視点

探究のエッセンスを維持して、自校のスタイルを確立する

座談会【P.18~21】



京都市立堀川高校
飯澤 功



京都大学高等教育研究
開発推進センター教授
松下佳代

- ◎課題設定の方法は生徒の状況次第。ただし、論証や実験は生徒主導に。
- ◎課題解決のために教科の知識・考え方を使う経験が重要。
- ◎探究学習の充実は、生徒の教科学習への意欲を高める。
- ◎教師に求められるのは、生徒の探究を見通した「答えではないアドバイス」と「問い掛け」。
- ◎探究学習における生徒の成長は、教師のモチベーションを高める。
- ◎探究のエッセンスが維持できれば、自由なテーマで、かつ学力に応じた探究学習が可能。